

魔法の medicine 活動報告書

報告者氏名：大石 弘江 所属：王子ヶ浜小学校 記録日：令和3年2月

キーワード：読み書き困難の補助 自己肯定感の向上

【対象児の情報】

- ・小学校3年 男児
- ・読み書きの苦手さがある。
- ・困難の内容・・・重度アトピーにより集中力が保ちにくい。理解力はあるものの、文字の形を取りにくく、漢字、音読、九九唱えなど反復学習が苦手。読めない漢字が増えたために、文章を読みたがらない。

【活動目的】

- ・当初のねらい
- ① 自分に合った学び方を知り「勉強の楽しさ」を実感する。
- ② 称賛される経験や人の役に立つ経験を積むことで自己肯定感を高める。
- ・実施期間：5月11日～2月
- ・実施者 大石弘江（通級担当）

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

【家庭環境・身体面】

- ・祖父母・従弟も含めた11人家族。
- ・重度のアトピーがあり、痒さや寝不足が学習に影響している。
- ・見えにくい様々な困難を周囲に理解されにくく、自己肯定感は低い。

【読み】

・URAWSSⅡ判定不可（10秒たたずして読むのをあきらめてしまった。介入課題で「読んでもらう方が分かりやすい」と答えている。介入課題は読解の正答は5/6。）

2年生の初旬までは教科書の音読は流暢であったが、分かち書きが減り、漢字や文字数が増えてきた2年後半より音読がたどたどしくなってきた。

- ・2年生以降の漢字は読めないものが多く、読めない漢字（ルビなし）を含むと、文章の内容理解度は低下。読み上げにより理解度があがる。
- ・絵本、図鑑をよく見ている。読み聞かせることで、状況や知識を理解し吸収する力は大きい。

【書き】

- ・URAWSSⅡ（5月）はC 視写速度はゆっくり（3分で25字）で、写し誤り（3字）もあった。
- ・読めるひらがな、カタカナであっても書きに対しての抵抗感は大きい。鏡字あり。漢字は苦手。

【算数】

- ・加減の計算はできる。学年相応の内容も理解できる。
- ・九九の定着は不十分である。

【生活面・行動面】

- ・行動調整が難しく、起きている状況の把握や自分の気持ちの整理、言語化も苦手である。
- ・クラスメートとの関係は良好。

○活動の具体的な内容

① 自分に合った学び方を知り「勉強の楽しさ」を実感する。

*自分に合った学習場所

【通級時間に於いて】*週3時間（個別・少人数学習）

算数を中心に個別学習を行った。積み上げることが要となる教科であるため、集中した状態で定着をめざした。教科書に書き込みで学習することにより負担の軽減を図った。通級で先取りして学習を進め、在籍学級で安心してすごせるようにした。また在籍学級の学習支援となる各アプリの使い方を通級時に確認した。

【在籍学級での学習】*1日のスケジュールと各時間の課題を明記



見通しを持たせることで安心して学習に向かえと考えると考え、画面の共有を設定した『OneNote』に、1日のスケジュールを明示した。取り組みが終わった課題についてはチェックを入れた。1日、1時間の見通しを持たせるとともに、チェックを入れることで自分の頑張りを一目でわかるようにした。後述の使用アプリは概ね在籍学級で使用している。



・通級においては一人の時も二人の時も「ここまで」と伝えたことにスムーズに取り組むことができた。課題の量を理解度に合わせて調整できるため、本児に無理を強いる必要もないと感じた。「もっと難しい問題出して！」という言葉が聞かれたこともあり、本児が授業を楽しんでいることが窺われた。苦手な掛け算を復習する時間や、アプリの操作を学ぶ時間をとることもできた。

・在籍学級においては、自分の席について学習をすることがなくなっていた。しかし本児に合わせた学習内容を提示したことで、みんなとは違う学習スタイルであるが、机に向かって取り組む時間は増えてきた。

*自分に合った学び方

【漢字の読み書きの力をつけるために】



『mirai 小学3年漢字』・・・毎国語の時間はデイジーを聞いた後、3字ずつのなぞり書きをさせた。なぞりの手順が明確に指示されるため、形を捉えにくい本児には、大きく手を動かしてなぞることができ、有効だった。また日々積み重ねが数値（達成％）で確認できた。



『わたしの読み上げ単語帳』・・・定期的な漢字の10問小テストのために単語帳を作らせた。自分で作ることで、簡単にページをめくってチェックができることで、読みの定着を促した。単語帳作成の際は自分で入力しやすい方法を選択した。

・iPadでは、ひらがな入力、フリック入力、音声入力を、課題により使い分けができるようになった。

・漢字を覚えるため『私の読み上げ単語帳』を自分で作成するという操作が本児には効果的で、漢字読みの小テストはいつも100点を取れた。まだ文字の形はうまく取れないこともあるが、プリントへ文字を書く時は、漢字、ひらがな、を自己選択して表記している。

【音読・読解力の向上のために】



『デージーポッド』・・・国語、社会、理科、道徳で使用。

URAWSS により「内容の読み上げ」が読解の支えになると本人からの申告があったため、ハイライトされた部分を読み上げてくれるデージー教科書を利用した。総ルビの教科書をダウンロードしたので、漢字の読みを、音だけでなく文字でも確認していくことができた。

『読み放題』『ボイスオブデージー』『えほん広場』・・・多くの本に触れる

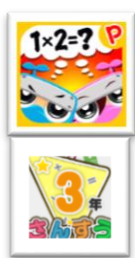
ことで読書を楽しむ気持ちを持続させることをめざした。デージーゆめ文庫は30分～1時間程度で読めるものを選んでダウンロードしておいた。

学校では国語・理科・社会・道徳でデージー教科書を常に聞いてきた。国語学習用には副担任にルビ付き教科書を用意してもらい、宿題の音読はそれを利用してきた。(注：光村図書学習指導書付録に「振り仮名付き紙面/分かち書き紙面(データ CD-ROM)」があり、読みの困難な児童等への使用が可能である。)そのため音読の負担は減少してきた。通級で時々音読を聞いてみると、流暢さが伸びてきているのを感じた。(後述のURAWSSIIの結果とも合致する)

単元テストを実施する際、1学期には読み上げ支援を行ったことがあったが、2学期以降は読み上げをすることなくテスト(ルビつき)を受けられている。但し、不注意傾向のため、問題の飛ばし読みが起きるので、今後は読み上げテストとの併用で小さなミスの軽減を図っていくことを、本人と相談していく予定である。

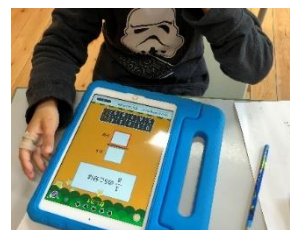
『読み放題』で、かなりの数の本を読んでいた。またデージーゆめ文庫の「あらしのよるに」や「エルマーのぼうけん」も楽しんだ。「あらしのよるに」を読んだ後には続きの本をすぐ探していた。また読み上げのない絵本アプリも入れていたところ、そのアプリの中の絵本も読み始めていた。読み上げがなくても、物語に興味を持ち、自ら読みたい気持ちになっていることも分かった。こうしたことで本児の読解力を保てていると考える。

【算数の学習の定着のために】



『算数海賊』・・・九九を繰り返し唱えることが嫌いで2年時に九九の定着を取り残しているため、まず九九の定着をめざした。定着前に割り算の単元学習が始まったため、九九表も手元に於いて、確認できるようにした。

『楽しい小学校3年生算数』・・・スモールステップで課題が出される上、言葉の選択や数字の入力で回答できる。書くことの負担が軽減したことで、多くの復習にも取り組めた。



【自分にあった入力方法の選択肢を増やすために】



『The Vehicles (乗り物) Typing』・・・

3学年でのローマ字学習に備え、ローマ字入力に慣れるとともに、使用場面に於いて入力の選択肢が増えるよう、6月下旬より、外付けキーボードでタイピングの練習を開始した。9月から在籍学級でローマ字を書く学習が始まったが、本児には鉛筆での作業を減らし、アプリでのタイピング練習を行った。



【その他学習方法の提案】



『NHKforSchool』・・・理科、社会の学習において、デジ教科書で読んだ内容の理解を促してもらえた。図鑑が好きな本児の知識を、映像と共に音声で解説してくれるため、この動画には引き込まれていた。また、「さんすうワン」や「おはなしのくに」にも興味を持ち、課題終了後に自分で観たいものを選んでいく。



『Binoba』『地図記号』・・・社会や理科について、デジ教科書やNHK for Schoolで予習していくことで、在籍学級での授業に参加できる時間を少しでも持てるようになってほしいと考えた。しかし結果としては参加できず、ミニドリルを用意したり、『Binoba』や『地図記号』のアプリを使ったりして学習内容の確認するよう提案してきた。



『縦書きエディタ』・・・国語「たから島のぼうけん」（光村図書）の単元で、自分の考えた話を音声入力し、原稿用紙にコピー&ペーストするという方法で取り組んだ。



覚えきれいなかった九九は『算数忍者』によってほぼ定着し、割り算や掛け算の筆算の際、上がり九九を小声で唱えながらではあるが、九九表を見ずに解くことができるようになった。3学期には、「(課題が済んで)時間があつたから割り算の復習を(アプリで)やった。」という発言をすることがあった。

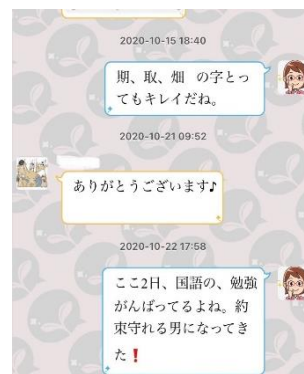
気持ちの自己調整が難しく、在籍学級ではOneNoteに提示してある課題から逸れることも繰り返してきた。そのため、その都度iPadを使用している意図を伝え続けてきた。関係性の築けていた担当とは制約がなくても自分を律することができたが、他の人からの指摘や助言を受け入れるのに抵抗があるようだった。しかしアクセスガイドという機能から制限を受けることで、自分の心との折り合いがつけられるようになってきた。そして、在籍学級の担任、副担任ともiPadの使用に関し交渉をするようになった。「仕方ないなあ。」と、デジ教科書、NHKforSchool、ミニドリル、『Binoba』などの課題に取り組むようになり、結果的に、理科や社会のテストにも安心して向かうようになっている。

②称賛される経験や人の役に立つ経験を積むことで自己肯定感を高める。

【称賛される経験】

・『ByTalk』や『OneNote』で学習したことの報告をもらった。済んだ課題のスクリーンショットも貼り付けさせることで、頑張りを自分で再確認することもできていた。また、『ByTalk』で学習をアピールすることで、その場に居合わせない教師からの評価を読むこともできた。

・日頃の頑張りを学校側からメールで保護者にも伝える。



『OneNote』で、学習済みのチェックを入れたり、できた課題のスクリーンショットを貼り付けたりする方法もマスターした。特に頑張っている漢字アプリの進捗状況は、細かに報告してきたので、その都度褒めることができた。

また在籍学級で多く関わってくれている担任、副担任と情報を共有し、褒める材料を学習だけでなく、日常生活にも見つけ、双方向から評価を受けられるようにしてきた。小さな頑張りを見つけ、常に大きく褒めてくれる副担任の存在は大きかった。放課後は1日の報告をもらい、そのことを家庭へも伝えるよう心掛けてきた。当初は褒められたことを素直に受け止められず、次の意欲には結び付かなかったが、様々な人から褒められる経験を積む中で、徐々に意欲を持てるようになってきた。「先生、これ、写真撮ってお母さんに送って」と自己アピールする姿も見られるようになった。

【人の役に立つ経験】

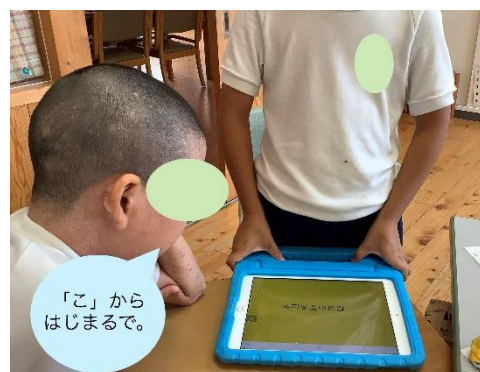
・自分ができるとは他の子に教えてあげる

1年生の通級児童が勉強している様子を気にかけてくれることもあるので「Aくん、私の代わりに先生やって。」と頼んだことがある。行動調整に苦戦する姿とは別人のお兄ちゃん顔になって、優しい声で下級生に教えてくれた。その時以外にも、在籍学級から通級へ逃げてきたのに、他の通級児童が学習で苦戦している姿を見て優しい顔つきになり、自分の学習をしながらも気にとめ、助言してくれることもあった。



・自分の作ったカードやテストと一緒に頑張る経験

自分と同じように漢字の読み書きが苦手な通級に来ているC児（同級生）には、自分の作った『わたしの読み上げ単語帳』での学習方法を教え、ともに漢字の読み学習に、繰り返し取り組んでいた。同級生を助ける時、A児はすぐに答えを教えたりしない。一度待ち、「わからん?」「こ、から始まるよ。」などと、ヒントを出している。また読解も苦手なC児のために単元テストの予想問題を作ることを依頼すると「いいよ。」と一生懸命考え、普段は消しゴムを使うことも面倒がるが、自分の書いた文を読み返しては間違いを直し、問題を作成していた。



・みんなが楽しめるカードゲーム作り

1学期、みんなで遊ぶため、パソコンでワードバスケットを作った。自分の苦手な濁音やカタカナを入れ、好きな色の文字に変換する方法なども教えると、初めての作業に意欲的に取り組んだ。「アニメなんでもOK」や「くだものなんでもOK」など新しい種類のカードを作り、ラミネート後、コーナーカッターでの作業も行った。

コロナ情勢により、1、2学期は大勢で遊ぶ機会が避けられており、残念ながらたくさん利用されてはいない。が、同級生に自由に遊んでも



らえるよう、学年のホールに置くことにした。また「他の学校の先生がこれを見て、欲しい！って言ってたよ。」と伝えると「いいよ。じゃあ次はどんな風に変える？」と意欲的な返事であった。いろいろな『ワードバスケット〇〇編』を作成していきたいと考えている。

落ち着いて過ごしている時でも、教室からいつの間にかいなくなり、保健室や校長室に顔を出しに行く。そして関わってくれる先生方と教室へ戻ってくる甘え上手な本児である。今年度の前半は、寝転がってそのまま寝てしまったり、壁蹴りをして感情をぶつかけたりすることが多かったが、2学期後半からそれらの行動は見られなくなった。また、自分同様、学習に困難を抱えた友達がいることはよく理解し、通級教室では仲良く学習したり、助け合ったりできる。登校を渋ったB児が通級教室で涙目になって固まっていた時には、隣の席でずっとB児の背中をさすり続けながら勉強し、時折さりげなく声をかけている場面があった。B児のつらい気持ちに共感しそっと見守る本児の姿に、本来はこのような優しさを持ち合わせていることに改めて気づいた。

不器用で反抗的な姿を見せることが多いのは、自己肯定感を十分持てておらず余裕がないのであろう。家族や他者との関わりの中で称賛の積み重ねが今後も必要である。

○対象児の事後の変化

- ・大人や物にぶつけていた怒りはなくなり、表情が穏やかになってきた。
- ・朝連絡帳を書くという習慣も2年時に声をかけても全くできなかったのだが、今では声掛けは必要であるが、ほぼ毎日朝のうちに書いている。
- ・2年時や1学期には、算数のドリルなどで、やり残しのページが多かったが、2学期以降はほとんど取り組めた。单元テストも、在籍学級でほぼみんなと同じ時間に受けることができるようになった。

報告者の気づきとエビデンス

主観的気づき

- ・自分なりの学びの方法を獲得したことで、学びたい気持ちが向上したのではないかな。
- ・自分以外の誰かのために行動することで、喜んでもらえ、反復学習を継続できるようになったのではないかな。



気づきに関するエビデンス

- URAWSS 【1月】 ・書き A ・読み B
- ・読み取り (○×) 正答数5

○国語单元テスト評価

	総合 (%)	言葉 (%)	話す聞く (%)	読む (%)
1 学期	57	50	60	70
2 学期	64	69	68	66

○教科別单元テスト総合評価

	国語 (%)	社会 (%)	算数 (%)	理科 (%)
1 学期	57	76	75	66
2 学期	64	69	85	80

エピソード

●通級の時間は毎日あるわけではないのだが、廊下で会うと「今日はことば（の教室へ行くの）何時間目？」と聞いてくる。2学期のある日、「オレ明日、一日中ことばで勉強してもいい？」と言ったこともある。自分で「どこで」勉強したいのか選択し始めている。当初、「通常学級でみんなと一緒に勉強するためにiPadを使う」と考えていたが、「どこで」「どんな」勉強をするのか、自分で選択できるように提案していくことが大切だと気づかされた。

「泊」の字で合ってる？



●『私の読み上げ単語帳』は音声入力を使うのだが、音声入力すると、自動的に未習の漢字表記も現れる。その際に「先生、これってこの漢字で合ってる？」と聞いてくる。そうだと答えると「じゃ、習ってなくても覚えてらいいから・・・」といった間にか未習の漢字がいくつも出てくる単語帳に仕上がるようになってきた。本児に負荷をかけるものでないため、楽しんで学んでいるのだと思われた。

●3学期、社会科の地図の様子を表した文の（ ）を埋めるという問題に出会った際、「あっ！そうだ。」と言って、『地図記号』アプリを開いて確認し、解答を書いていた。教科書を開いて探すのではなく自分にとって効果的な助けとなるツールを広げられるようになっていた。



今後のこと

学習方法はみんなと違ってもいいことと、認め褒めてあげることでさらに次の意欲につながることで、誰かのために何かをすることがもたらす学習の成果を、私自身が学んだ1年である。

読み書きの支援ツールとして、本児にとってICTは引き続き必要であると考えます。家庭で「デイジーが読みたい」とつぶやいた話を保護者から聞いたため、1月半ばに一度、持ち帰りiPadを使っただけの宿題に取り組んでみた。すべき宿題（OneNoteに記載）の途中で、従弟達とアプリで遊んでしまっていたそうだが、OneNoteにチェックをしながら、すべての宿題をやってきていた。家庭でのICTの使用に関しては課題もあるだろうが、何のために使っていくのか、どのように使っていくのか、本人と話し合いながら有効活用の方角を探っていきたい。